

NPO法人 あっとわん

ママのこころと笑顔の応援団



第140号

通信

あっとわんは子育て支援の団体です。親と子のエンパワメントを応援しています。 2015年7月24日発行 46,370部

モノづくりの視点は
それぞれの個性を
引き出すヒント

NPO法人ひょうたんカフェさん のところへ行ってきました



代表理事の橋本思織さん(右)と副代表の井上愛(左)さん(写真)

地下鉄東山線「中村公園」駅から徒歩3分程度の住宅街の中にあるNPO法人ひょうたんカフェさんに行ってきました。

平成15年任意団体から活動をはじめ、現在は、生活介護事業(デイセンターひょうたんカフェ)・就労継続支援B型事業(ワークセンターひょうたんカフェ)・障がい者ヘルパー事業所(ヘルパーセンターらいぶ☆YOU)を事業としてやっています。

地域に根ざした活動をめざし、中村区のシンボル「ひょうたん」と、「カフェ」のように誰もが集まり交流できる場所であってほしい、という願いをこめて「ひょうたんカフェ」と名付けました。ミッションは「障がいのある方々の力を社会に生かし、社会に発信していくための活動を続けていきます。」です。

「モノづくり」が好きなお2人で立ち上げた団体です。「モノづくり」を通して、障がいのある人たちの持つ「キラリと光る才能」をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いが、現在の事業にも息づいています。

カフェも併設していて、お茶を飲みながらドーナツをいただけるスペースもありますし、店内にはさをり織りの小物もあり、どれも目を引く素敵なものばかりでした。



「お豆腐」「おからドーナツ」「さをり織り」のさまざまな作品や商品は、障がいのある人たちが作っています。障がいのある人たちの個々の特性を見ながら、得意分野を生かしています。

たとえば、さをり織りの商品には、織った人の個性や特徴を大切に商品を考えて、大事にしながら作っています。ゆったりとした時間の流れと、さをり織りの色とりどりの糸がおりなす作品の数々…。

また、フード関係も同様で、利用者さんの得意なところを生かせる配置を心がけていらっしゃいます。



お2人はモノづくりが好きということもあり、おからドーナツの新作を考えたり、新しい作品のことを考えたりすることがとても好きだとおっしゃっています。

さらに、利用者さんの特性や個性、みんなの力を合わせることで形になっていく…。そんなあたたかい循環を感じました。これから、ますますニーズが高まっていくように感じる時間でした。

さをり織りのように、いろんな素材や色の糸をつむいで織っていくように、利用者さんの持ち味を紡いでいくこと…そこに、新しいものを生み出していく楽しさとやりがいを重ね合わせながら、お話を伺っていました。

おからドーナツとさをり織りの小物をいただいて帰りましたが、ドーナツは数種類あって、どれもおいしかったですよ！お豆腐は気温の関係で断念してしまいました…。残念。以下のところで商品を見たり買ったりできますので、ぜひ足を運んでみてください。

- ・星ヶ丘 榮進堂さん(クラフト商品)
- ・毎月28日 東別院手作り朝市
- ・毎月21日 興正寺マルシェ(八事)



ホームページやフェイスブックもぜひご覧くださいね。



DATE

NPO法人ひょうたんカフェ

名古屋市東区中村区砂田町2-15

http://hyoutan-cafe.jp

facebook「ひょうたん」で検索してくださいね。

アクセス：地下鉄東山線「中村公園」駅6番出口徒歩3分

かわのゆみこ

「人は忘れる動物である」。確かに、ストレスの多い現代においていろいろな意味で忘れないと人はやっていけないなあと思います。とはいえ、仕事や事業、活動においては「忘れてはいけないこと」というのがあるのも事実です。人は、ストレスから身を守るために無意識に忘れてしまうことが多いように思いますが、忘れずに「次に生かす」こともとても大切です。▼ここでは、「行動分析的な視点が必要だと考えます。さらに、「想像力」が働くのかなとも私は考えています。より良い方向に自分を置いていきたいのなら、具体的に目標ややりたい姿をイメージしていくことからスタートです。このイメージがあいまいだと、「どんな事柄を覚えておくのか」という事もあいまいになってしまう、結果的に自分の都合のいいことだけを覚えておくこととなります。▼必要なことを覚えておく、次につなげるための努力や、試行錯誤をするという事自体が学びとなります。学びは生活の中にゴロゴロしています。今の状況を変えていきたいと思う人は、つい見過ごしたり忘れてしまっていることを、丁寧に紡いでいくことをお勧めします。その積み重ねが、必ず変化に繋がっていくと思います。

あっとわん春秋